

# Eos 執筆ガイド

## 目的

*Eos* は AGU 内部の学際的な連携を強化することを目的としており、地球や宇宙に関するあらゆる科学分野にわたる最新ニュースや学会の概要などの重要な記事をタイムリーに発行します。地球物理学上の科学活動や重要な出来事、主要な科学的発見、また現在科学界で議論となっている話題などを簡潔に分析・統合して地球科学の全分野にわたる読者にバランスの取れた見方を提供します。なお、*Eos* ではオリジナルな科学研究結果は掲載しません。オリジナル研究については他の AGU ジャーナルに投稿してください。

## *Eos* に期待される記事

- 読者が自分の専門分野と他の分野、また AGU についての情報を常に把握できる。
- AGU 会員の大半が関心をもつ。
- 示唆に富み、関心を呼ぶもの。
- 報道する価値がある内容。

*Eos* は研究ジャーナルではなく新聞です。*Eos* の記事には、広範な読者向けのニュースの文体が要求されます。*Eos* の記事を執筆する際、テーマについて熟知していない読者がいることを念頭においてください。

なお、以前に出版された記事や他の出版物に提出した原稿は検討も掲載も行いません。

## ***Eos* 記事の執筆**

ここに掲載した詳細な執筆ガイドラインを注意してお読みください。ここに提示した要件に従って執筆すれば審査段階で有利になり、採用された場合に早く出版されます。

テーマについて熟知していない読者がいることを念頭においてください。そのため執筆原稿には背景情報やしっかりした構成が必要になります。テーマについて最も重要なポイントを読者にタイムリーに告知することが *Eos* にふさわしい記事です。通常の研究論文では結論にいたるまでの過程を練り上げますが、*Eos* では結論を先に提示し、詳細はその後に提示します。その分野の専門知識の有無にかかわらず、記事を最後まで読まなくては最新情報や重要性、興味関心事がでてこない形式ではいけません。

文体は簡潔で読みやすくしてください。長い記事よりも、短くてテンポの速い記事がよく読まれ、頭に入りやすいものです。

.../...

採用された場合、本紙の執筆基準に合うように *Eos* のスタッフが著者と協力して作業をします。他のジャーナルよりも採用後に大幅な編集が加えられることが多くなります。

執筆上の注意：

- 専門用語や特殊な表現は避ける。AGU の全分野に共通しない用語を使う場合は説明や定義を載せる。
- テーマの重要性（この記事のテーマがなぜ重要なのか）を最初の 1~2 段落で明確かつ簡潔に述べる。
- 数式は使用しない。テーマについて深く理解するために数式が必要な場合、専門外の読者向けに簡単な説明を付けて使う。
- 出典の引用は最低限にとどめる。執筆に当たって重要な情報源となったものについて興味のある読者に詳細な情報を知らせるだけにとどめる。*Eos* は研究ジャーナルではないため、すべての出典を細かに列挙する必要はありません。
- 図の説明文は明確かつ簡潔な完全な文章で書く。
- 新聞のような見出しを付ける。本文の最も重要な側面に注目した簡潔な表題を“動詞”を含めて書く（略語は使わない）。
- 略語を使う場合は初回につづりを略さずに書く。

文体など編集段階で頻繁に変更されるポイント：

- 特集記事やレポート、ニュースでは注意を引く導入部を書く。
- 記事のニュース性や要旨を強調する。
- 結論のセクションを追加する。
- 図の説明文が図を明確に説明できているかどうか。
- 略語は初回の使用時に定義する。
- 強調用の文字飾り（斜体や太字）は使用しない。
- シリアル・コンマを使う（訳注：三つ以上のものを A, B, and C のように列挙するときの and の前のコンマを使って A, B, and, C とする）。
- 日付の書式は日月年とする（25 January 2003）。
- 年度は完全な形式を使う（1989–1990）。
- 10,000 未満はコンマを付けない（例：7213）。
- 抱合言語／略語など。導入の“摘要（Abstract）”
- 地質年代など年代を追加する。
- 小見出しを追加する。
- 大見出しはふさわしく、“ニュース性”があるかどうか。
- 段落の長さを短くする。
- 特集記事、レポート、学会報告、ニュース記事には一人称代名詞を削除する。
- アメリカ英語にスペル変更する。

**執筆：**筆者とは、実際の記事を書いた人物に限られます。実際のプロジェクトやプログラム、研究などにかかわった人物であっても、記事を実際に書かない人は筆者にはなりません。プロジェクトチーム名は筆者にはできません。

.../...

**原稿の量：***Eos* の紙面には限りがあるため、すべてのカテゴリで原稿量が決まっています（以下を参照）。原稿量は、本文のテキスト、出典名、図の説明文、著者名を表記する行、所属の合計のワード数で示されます。図または表は1つにつき400ワードで換算します。寄稿原稿の基準分量として、*Eos* では4段組1ページに約2800ワード入ることを目安としてください。

**オンライン補足情報：***Eos* では印刷媒体で収容しきれない詳細をオンラインの補足情報でカバーします。こうした補足情報には、その分野の専門家にとって関心のある内容や詳細にかかわる資料などが挙げられます。また、印刷媒体に出版された内容を補足するダイナミックコンテンツにも活用できます。

オンライン補足情報は*Eos* のオンライン版に保存されます。オンライン補足情報として*Eos* に掲載を希望する情報は、審査のために原稿提出時に共に提出してください。*Eos* オンライン補足情報には、アーカイブデータ、モデル、手法、コンピュータ・プログラムは使用できません。

補足情報の量規定については、各種*Eos* 記事の項で説明しています。補足情報に使った資料は、AGU出版物すべてに共通する二重出版制限に従ってください。オンライン補足情報は、一般に編集されません。

**基本的なスタイル：***Eos* はAGUジャーナルの基本スタイルに従います（執筆ツール：[http://www.agu.org/pubs/authors/manuscript\\_tools/journals](http://www.agu.org/pubs/authors/manuscript_tools/journals) を参照ください）。このスタイルは『*Chicago Manual of Style*（シカゴマニュアル）』と『*Words Into Type*』に基づいています。Webster社の『*Collegiate Dictionary*』と『*New Third International Dictionary*（とその補遺版）』、『*Glossary of Geology*』がハイフネーションとスペルチェックに使用されます。AGUではオープン・パンクチュエーション・スタイル、つまり、明確にするために必要なだけのパンクチュエーションを使用します。単位はメートル法とし、国際単位の使用を強く推奨します。

AGUの記事によく使用される用語リストや語法（ハイフネーション、大文字の使用法）などの詳細について、『*AGU Grammar and Style Guide*』がPDFファイルで用意されています。また『*GU Reference Style Guide*』（PDF）も執筆時に参考にしてください。

## 寄稿記事のカテゴリ

*Eos* 編集部では出版対象として以下のカテゴリの寄稿を検討します。

**特集記事（Feature Articles）：**地球物理学全般にわたるテーマについて、確固とした全体像を与える記事。特集記事の場合、白書のように、幅広い分野を背景にテーマを設定してください。地球物理学の全分野の専門家が理解し評価できる内容とし、関連した研究課題や研究のきっかけを読者に与えられるものが優れた特集記事です。特集記事は1つのプログラムやプロジェクト、学会、研究・実験などに集中する必要はありません。むしろあるテーマについて複数の研究や事例を検討できます。可能であれば、テーマに関連した科学と政策の問題を織り交ぜたり、異なる研究結果の認識を広めたりしてくだ

.../...

さい。結論セクションでは、発見した内容や応用方法、さらに可能性のある将来的な研究の方向性について言及してください。科学的な論争や最先端の問題は、今後の特集記事としても興味深いものです。手引書となる性質の特集記事もあります。特集記事は、2つ以上の科学分野（例：岩石圏、生物圏、太陽圏）の専門家の関心を引くものにしてください。*Eos* ではオリジナルな科学研究結果は掲載しません。

特集記事の原稿量：2500 ワード（換算後）。図や表は1つにつき400ワードで換算します。

**レポート（Brief Reports）** はあるプログラムやプロジェクト、研究について進捗状況やアップデートを報告します。レポートに掲載するテーマには最近の地球物理学現象、新たな大規模科学プログラム/プロジェクトの重要性・意義、長期にわたる歴史的な研究、主要な地球科学や宇宙科学の寸描、有用な新しいソフトウェアの応用法や一般に入手できるデータ収集についての論評が挙げられます。*Eos* ではオリジナルな科学研究結果は掲載しません。筆者とは、実際の記事を書いた人物に限られます。実際のプロジェクトやプログラム、研究などにかかわった人物であっても、記事を実際に書かない人は筆者にはなりません。プロジェクトチーム名は筆者にはできません。

原稿の量：1500 ワード（換算後）。図または表は1つにつき400ワードで換算します。

**学会報告（Meeting Reports）** は、*Eos* 読者に関心のある最新学会について科学的な最重要点を簡潔に要約したものです。他の研究分野や新旧の問題についての重要な進展を、興味を抱く会員に知らせることを目的とします。最重要点は、読者がその科学分野や応用方法について理解を深められるように、研究結果の重要性を示してください。*Eos* とは別の出版社の報告書を参照したり、*Eos* の電子補足資料としてより詳細な報告書を提示してもかまいません。詳細な学会報告書をオンライン補足情報として掲載を希望する場合も、研究の結果に焦点を絞ってください。学会の単なる年表や既存データの再表示はいかなる場合でも補足情報として採用できません。学会で最も重要な側面のみを選択し、簡潔な物語体で報告してください。筆者は、学会の組織団体や主催者ではなく、実際に要約を記述した3人までの人物に限られます。*Eos* に掲載を希望する場合、学会が開催されてから2か月以内に原稿を提出してください。

原稿の量：500 ワード。図はなし。

補足情報の原稿量：1500 ワード。図を入れることができますが、図は1つにつき400ワードで換算します。

**学会のお知らせ（Meeting Announcements）** は、<http://www.agu.org/cgi-bin/gycal> の AGU Geophysical Year Calendar（AGU 地球物理学年間カレンダー）に提出してください。学会の名称、主催者、連絡先、摘要の締め切り、1~2文の内容を掲載します。

**最新情報（News Items）** は、最近の地球物理学現象、興味深い最新の研究結果、機関や団体の進展内容、重要な新規研究プログラムや新規データ収集について簡潔に報告します。オンライン補足情報で詳細内容を追加することは可能ですが、編集者の裁量にまかされます。「最新情報」の出版ではタイミングが重要です。

原稿の量：700 ワード換算。図は1つにつき400ワードで換算します。

.../...

**地球物理学者 (Geophysicists)** コラムは AGU 会員についての受賞報告、人事異動、訃報、近況報告などを掲載します。本コラムに提出する内容は [eos@agu.org](mailto:eos@agu.org) までメールでお送りください。提出項目は 1 件につき 100 ワードまでとし、スタイルに沿って編集されます。AGU 会員の訃報については [service@agu.org](mailto:service@agu.org) (Member Services) までご連絡ください。

**フォーラム (Forum)** は、本紙内または *Eos* オンライン討論会の一部として議論のきっかけとなる寄稿を掲載します。フォーラムの話題として適切なものは、現在または提案された科学政策、AGU が対象とする科学分野における最新研究に関連した話題 (特に科学上の論争)、科学と社会との関連、われわれの科学分野に影響する慣行、科学一般、組織としての AGU などが挙げられます。研究ジャーナルに掲載された科学研究についてのみ論評したコメントは適切ではありません。

原稿の量：1500 ワード。通常、図は入りませんが、入れる場合は 1 つにつき 400 ワードで換算します。

**編集者への手紙 (Letters to the Editor)** は、*Eos* に掲載された記事についての短いコメントです。議論を引き起こすことは目的としていません。手紙を書く理由を明確に示す必要があります。採用された手紙は、メッセージの趣旨を強調するために短くすることがあります。短くなった手紙について、著者は掲載を拒否する権利があります。掲載を希望する場合、コメント対象の記事が掲載されてから 2 か月以内に提出してください。

原稿の量：350 ワード。手紙として図が適切と判断されることは極めてまれです。

**コメントと返事 (Comments and Replies)** は、最近の *Eos* 記事で扱われた科学的な重要事項や事実関係を明らかにすることを目的とします。AGU ジャーナルのコメントと返事 (Comments and Replies) のガイドラインが *Eos* でも適用されます。誠意と職業意識をもって対応してください。掲載を希望する場合、元の記事の出版日から 2 か月以内にコメントを提出してください。

原稿の量：350 ワード。

**歴史的な研究 (Historical Notes)** は、歴史に残る科学的研究が現在の科学に及ぼす影響や現代に与える視点などを扱います。現在に重要な意味をもつ歴史的な研究や過去の研究や観測についての興味深い予想外の展開なども含まれます。

原稿量：500 ワード。

補足情報の原稿量：1500 ワード。図を入れることができますが、図は 1 つにつき 400 ワードで換算します。

**死亡記事 (Obituaries)** は招待によります。AGU 会員の死亡記事の提案については、科学界と AGU への故人の功績について簡単な文章を付けて [eos@agu.org](mailto:eos@agu.org) までメールをお送りください。

.../...

完全な死亡記事を招待するかどうかは歴史編集者、故人の所属する科学分野の会長または次期会長、AGUの専務理事が決定します。年間の死亡記事掲載数は、特別研究員（Fellows）の割合と同様に、そのセクションや科学分野で0.1%までに限られます。

原稿の量：1000ワードおよび故人の写真。

**書評、ソフトウェア・AGU以外のウェブサイトの評価・レビュー（Reviews of Books, Software, and non-AGU-affiliated Web Sites）**は、*Eos*の出版対象となります。すべての読者の興味を引き、テーマとなる内容について理解を深められる書評を期待しています。本の著者が意図した目標をどこまで達成しているかを言及し、その貢献度について評価する必要があります。章ごとの詳細は入れないでください。ワールドクラスの新聞や雑誌の書評欄を参考にしてその手法に従ってください。

レビュー対象となるソフトウェアは販売品・非売品の双方です。レビュー対象となるウェブサイトは、当会員や地球・宇宙科学のあらゆるレベルの教育者にとって興味の高いものを選んでください。一般に公開されているサイトを対象とします。ソフトウェアおよびウェブサイトのレビューは書評のガイドラインに準じます。ウェブサイトのレビューは、そのサイトを有効に活用できるように必要な知識レベルについても言及してください。

全読者にとって興味がわくレビューが採用の主な基準となります。レビューはすべて *Eos* 編集者の招待によります。依頼されないレビューは検討外です。

原稿の量：750ワード。図はなし。

**GeoFIZZ原稿（GeoFIZZ manuscripts）**は、地球や宇宙の科学の広範な問題を扱った短い記事や図・イラスト、マンガなど、少し変わった見方や軽いタッチの作品で、AGU会員の笑いを誘うこともあります。

原稿量：700ワードに図を1点。

### ***Eos* への原稿の提出方法**

編集部では世界中の著者からの寄稿を歓迎します。出版に採用するかどうかの決定は、本ガイドラインに記載した内容を基準とします。採用を決定するにあたって編集者は審査員と相談することもあればしないこともあります。

*Eos* への投稿は <http://eos-submit.agu.org> の GEMS オンライン・インターフェースを使用してください。AGU ジャーナルに投稿したことがある場合、その時のログイン情報が *Eos* でも使えます。AGU に初めて投稿する著者は登録を要求されます。この登録は一度限りで、AGU の出版物の投稿および審査で共通します。オンライン投稿では全面的にリンクが設けられていて、投稿プロセスが分かりやすくなっています。質問や要望など詳しい援助が必要な場合は、[eos@agu.org](mailto:eos@agu.org) までご連絡ください。

テキスト投稿の適切なファイル形式は Word、WordPerfect、または pdf です。

.../...

*Eos* に掲載する図については、AGU 研究ジャーナルの画像のガイドライン（参考：[http://www.agu.org/pubs/authors/manuscript\\_tools/journals/graphics\\_prep.shtml](http://www.agu.org/pubs/authors/manuscript_tools/journals/graphics_prep.shtml)）に従ってください。図の判読性に配慮し、テーマの理解に貢献できる図を選んでください。*Eos* のダイナミックコンテンツは電子補足資料として発行します。図や表は本文原稿と一緒に審査されます。カラーの図の出版費用はその号の最初の図が US\$1300 で、2 つめから 1 点につき US\$325 を請求します。この費用の支払いの確約が出版前に必要になります。

出版前に、著者は *Eos* 著作権の譲渡フォームに記入する必要があります。